

# 宝塚市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年3月～24年3月)

## 【中心市街地を巡る状況】

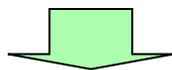
○歴史のある近郊型「観光都市」。レジャーの多様化・震災の影響等により、大型施設の撤退が相次ぎ、観光客が減少。

▽宝塚ファミリーランド(年間200万人以上集客)の閉鎖[H15]

▽大型温泉旅館(宝塚グランドホテル)廃業 [H15]

○鉄道駅を核とした「住宅都市」。周辺自治体への大規模店舗の進出等により商業・サービス機能低下(住民の生活利便性低下)。

▽再開発ビル核テナント(西友)撤退 [H18]



○中心市街地の観光集客数の減少

H9:385万人→H18:178万人(△46%)

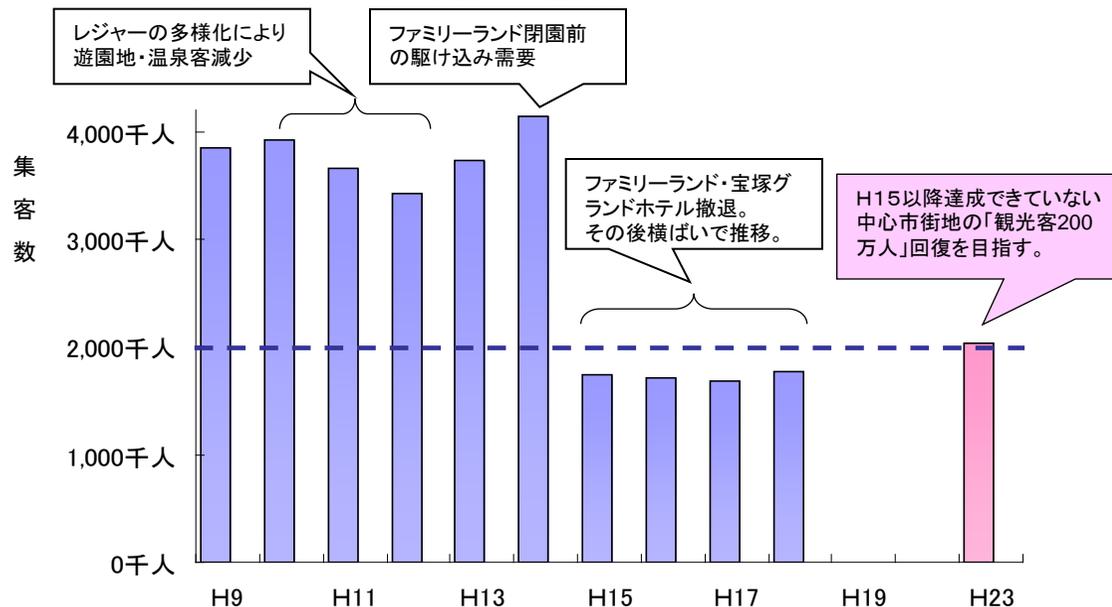
○中心市街地の小売業年間販売額の減少

H8:632億円→H18:411億円(△35%)

## 【目標】

目標	指標	現況値 (H18)	目標値 (H23)
文化・芸術とてなしの心あふれる「訪れてみたい」まち	中心市街地の観光集客数	178万人	200万人
商業・サービスが充実した「暮らしやすい」まち	小売業年間販売額	41,123百万円	43,000百万円
	空き店舗率	16.3%	9.5%
市民自らが「いきいきと活動できる」まち	NPOの実施事業数	30	90

## 【中心市街地の観光集客数の動向と数値目標】



「歌劇」「アニメ(手塚治虫)」をはじめとする文化・芸術・観光資源を活用したまちなか観光の再生を行うと共に、旺盛な市民活動を生かした商業・地域コミュニティの再生により、訪れる人と暮らす人がともに過ごしやすい中心市街地を形成する。

# 宝塚市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 宝塚らしさを活かした観光の再生

○アニメ制作体験工房等が整備された**手塚治虫記念館**を世界にアピールするため、**国際的なアニメーションフェスティバルでのブース出展**や**アジアを中心としたプロモーション活動**等情報発信を強化し、アジアからの観光客を取り込み。



手塚治虫記念館



案内の多言語化  
(イメージ)

○宝塚音楽学校の旧校舎をリニューアル。宝塚大劇場の舞台をイメージした野外ステージの整備や宝塚歌劇の映像資料等の展示により、新たな観光資源として再生。



宝塚音楽学校旧校舎  
リニューアル(イメージ)

○「栗」「いちご」「すみれ」等**地域資源を生かしたスイーツ等の新商品等の開発**と**イベントとの連携**による販路拡大を実施。

## 暮らしやすい街づくり

○遊園地跡地に**関西学院初等部**を平成20年4月に開校。地域との連携を重視し、子育てセミナー等の方策を検討。



関西学院初等部  
(イメージ)

○H18の西友撤退により大規模な空床が発生している再開発ビルの商業床一体化を行い、食品スーパーやファッション等の**テナントミックスを実施**。



アピア

○時間貸し駐車場の利便性向上を図るため、**駐車場共通利用サービスを導入**し、郊外大型店に対抗。

○高齢者世帯を対象とした**お買い上げ商品配送事業**により利便性を向上。

○市内最大の再開発ビルの空床を活用し、子育てサロンや音楽・美術・健康クラブ等を配置。自治会・まちづくり協議会・NPO法人が連携し、**地域住民の活動・交流の場の提供**を行う。



出前健康指導  
(イメージ)

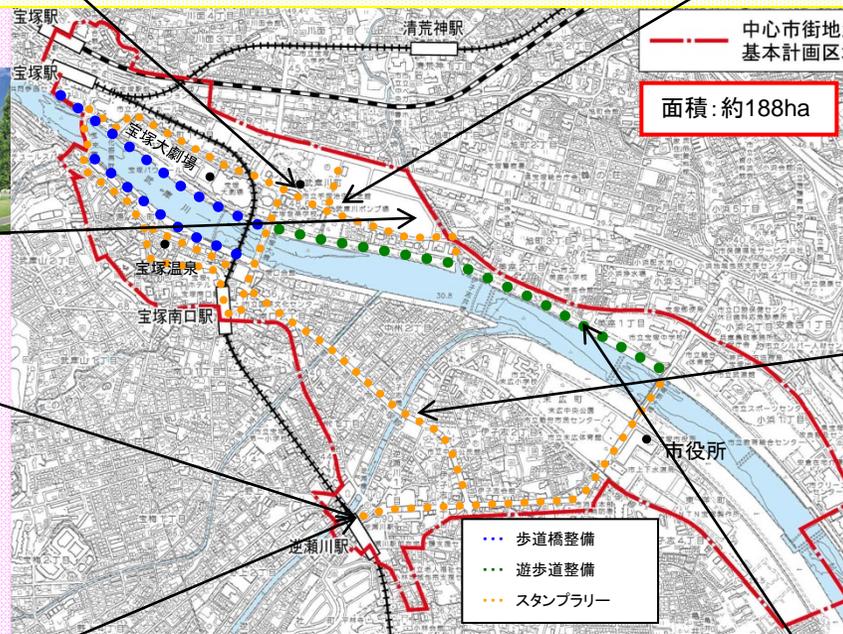


子育て支援  
(イメージ)

○NPOや大学と連携し、中心市街地の活性化の核となる人材を育成。

○**SNSを活用**しコミュニティ情報の発信を行うことにより市民活動を支援。

## 市民自らがいきいきと活動できるまち



## 回遊性の向上

○観客がステージのスケジュールに合わせて会場間を移動する、ジャスを中心としたまち歩き促進型音楽イベントの実施。



宝塚音楽回廊

○「食」に着目したスタンプラリーとミニコンサートなど**イベント間の連携強化**、「ひかりのさんぼみち」等の市民参画イベントへの協力者拡大による回遊策の強化。



おいしいまち宝塚  
(スタンプラリー)



ひかりのさんぼみち  
(スタンプラリー)

○観光拠点に近接した**河川敷・遊歩道の整備**により、域内の回遊性の向上を図る。



観光施設周辺の市道整備事業